

# セルフメダルカウンター

今回の言葉物語は「セルフメダルカウンター」です。各台計数機を導入していない店舗でも、2018年に入り都内でもお客様がメダルを自ら流す時代に入ってきました。その現状をお伝えしたいと思います。

## 多数の従業員は未体験

私も、いわゆる「昔のパチンコを知る世代」ではセルフ計数は主にパチンコの世界では常識でした。店員は島の端でタバコを吸いながら台鍵をジャラジャラと回して客をニラミつける。そんな時代の中で、挨拶やお客様の計数作業の補助(後に代行)を「サービス」として導入し、当時の

のメディアに「ホテル並みの接客」としてもはやされるようになったのが、確か今から20年より少し前と記憶しています。他にも、今の「両替」「各台玉貸し」「当

たった時のドル箱下げ」、さらには「計数作業」も全てお客様が行っていたものを、業界のサービス品質向上の努力の結晶としてストレスフリーな現代の姿に昇華していったのです。

しかし、唯一店員が介入する作業の代表格が「メダル計数」でした。それは持ち込みやゴト行為の監視やメダルカウンターの詰まり対策等のさまざまな側面があるために、多くの店舗では店員が確認の上計数をしていました。つまり、恐らくセルフ計数を経験していない今の多くの従業員にとって、このセルフ計数は「未知の領域」に入るといふことになります。

## 「低貸し」中心に広まる

パチスロでの各台計数の歴史は浅く、業界初の各台計数はユニバーサルエンターテインメントより2011年に発表されたものからとなります。以降徐々に浸透しつつありますが、多くのホールでは現状の島端でのメダルカウンターに持って行き店員が流すスタイ

ルが多く残っています。

それが今年になり、都心部でも低貸しメダルを中心にセルフ化が始まりました。多層階が多い都心でのセルフ化によるメリットは少ないように見

えますが、ワンフロア200台クラスでもセルフ化により通常時1名巡回が可能になるので、仮に1名削減で昼時給1200円と仮定しても年間約700万の純削減効果が見込めます。しかも低貸しならゴトの発生率も低いため、高価な各台計数機を導入するよりも効果的です。

## リピート率向上も期待

無論、お客様が計数を希望すれば従業員がドル箱を持ち計数作業を代行してくれるので、ユーザーからすれば大きな変更点はほとんどありません。私もマイホームのホールで、この移行の一部始終を見てきましたが、大きなトラブルは見かけていません。これは、上述のゴト発生率の問題や、大量出玉が出にくい現スペック、20円スロットに比べ、純粹にパチスロを楽しみたい牧歌的な低貸しの風土なども好影響なのでしょう。さらに低貸しは常連率が

高い傾向もあり、

相互監視が効きやすいという副次的効果もあると考え

られます。さらに「自分で交換」することにより勝ちの記憶が刷り込まれ、店舗への良い記憶が増えることはリピート率の向上も期待出来ます。そのような点から比較的スムーズに導入が行っていると思われれます。

全国では、パチンコの各台計数機非導入店でもセルフ化をした店舗が多くあります。業界の先細りや採用難という大課題を克服するべく、苦渋の決断でもあります。ではその削減した原資はどのように配分していくのでしょうか。単純な年度計画の達成という短期的な部分ではない所に未来の競争力を分けるポイントが出てくるはずですが、大手では寡占化を目指す大規模投資へ、中小店ではより高品質な人材の採用等、環境により異なるでしょう。より魅力的な店舗に向けてこの施策を活用してもらいたいと思います。(大和田敏男)

## 魅力的な店作りに一役



別積み用台車を転がし、セルフカウンターにて万枚の出玉を流す。心なしか達成感も大きく感じるのは気のせいかな。(筆者撮影)